

子どもの人権を考える

「人権の世紀」ともいわれる21世紀。これからの社会を担う子どもたちは、一人ひとりが人間として最大限に尊重され、守られなければなりません。

しかしながら、現在、少子化の進行や、家庭や地域の子育ての力の低下、人間関係の希薄化など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。さまざまな社会背景や生活状況などの要因もあり、学校でのいじめや不登校、貧困、家庭での児童虐待、ヤングケアラーなどが増え、子どもたちの人権が守られていない状況にあります。



く る め しな いちゅうがく ねんせい さくひん ねん ど じんけん さくひん しゅう
久留米市内中学3年生の作品<2022年度人権作品集より>

子どもの姿は、現在の社会を映す鏡であり、未来を映す鏡でもあります。子どもの人権を守り、子どもたちが社会的に自立していけるよう、社会全体で子どもの健やかな成長を支えていくことが必要です。



いじめ

いじめは深刻かつ、命にも関わる重大な人権問題です。現在も、いじめが原因となる自殺や傷害事件など、痛ましい事件が後を絶ちません。

【いじめの構造 (いじめの四層構造)】



いじめには、「被害者」と「加害者」の子ども以外の「観衆」や「傍観者」の立場にいる存在が大きく影響しています。「観衆」がいじめをおもしろがったり、「傍観者」がいじめを見て見ないふりをするので、いじめはひどくなります。

見て見ないふりをするのではなく、「いじめはいけない」というメッセージを発信することで、いじめを許さない雰囲気を作り、いじめをなくしていかなければなりません。

